



# 感染対策室ニュース



2023年4月26日発行

With コロナ～感染対策を生活習慣に～大阪南医療センター

## 血液培養採取手技を見直そう 《培養汚染率上昇中》

2016年以降、薬剤耐性菌対策のために、抗菌薬適正使用が推進され、当院でも抗菌薬適正使用支援チーム (AST)が活動している。  
抗菌薬を適正に使用する為には、培養検査の正しい結果は必要不可欠

### 当院の血液培養の採取状況・適正さ評価

|                             | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 国内6施設<br>パイロットスタディの<br>中央値(大曲ら) |
|-----------------------------|-------|-------|-------|---------------------------------|
| 病床数                         | 430   | 430   | 430   | 852.5                           |
| 血液培養総セット数                   | 2710  | 2723  | 2818  |                                 |
| 2セット以上採取率(%)<br>小児科は除く      | 94.3  | 95.3  | 95.2  | 67.2<br>(50.7~85.2)             |
| 100病床数あたりの<br>採取セット数        | 630.0 | 633.0 | 657.7 | 694.8                           |
| 在院患者延べ数                     | 93877 | 88153 | 96066 | 257117                          |
| 陽性セット数                      | 376   | 418   | 431   |                                 |
| 汚染セット数                      | 56    | 61    | 70    |                                 |
| 陽性率(%)                      | 13.9  | 15.4  | 15.3  | 13.9                            |
| 汚染率(%)                      | 2.1   | 2.2   | 2.5   | 1.8                             |
| 入院患者延べ日数<br>1000日あたりの採取セット数 | 28.9  | 30.9  | 29.3  | 25.2                            |

2セット採取率はよいが、**汚染率が年々増加しており基準より高いことが問題**

### 汚染(コンタミネーション)定義

2セット以上採取された血液培養の内、と規定の菌種が1セットのみ発育している場合

### 汚染(コンタミネーション)がもたらすデメリット

- 不要な抗菌薬投与の増加
- 不要な検査の増加
- デバイスの不要な抜去
- 入院期間の延長  
(平均4.5日延長ともいわれている)
- 医療費の増大



### 汚染回避の為に

- 適切な皮膚消毒
- 血液培養ボトルの消毒
- 適切な採取部位の選択

### 適切な部位の選択



### 適切な消毒



### ボトルのゴム栓の消毒



ポピドンヨードではゴムが劣化するので、アルコール綿で行う

- 有機物を除去した上で消毒しましょう
- 消毒が乾燥するまで待つて穿刺→乾燥待ち約2分
- ゴム栓部位をアルコール綿でゴシゴシ消毒
- 蓋があってもゴム栓は滅菌されていないことを知ろう
- 鼠径部の汚染リスクは高い
- 血管内留置カテーテルからの採血は汚染リスク「高い」